令和６年度　学校経営計画・自己評価書

足立区立六木小学校
校長　　河野　典義

１　学校教育目標

教育基本法第１条にある人格の完成をめざし、人権尊重の精神を大切にしつつ、人間がもつ諸資質を全面的かつ調和的に育成する。そのために次の児童像を掲げる。　　〇考える子　　〇元気な子　　〇助け合う子

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

〇学校像	児童があこがれをもって通える、保護者や地域が温かく支える、教職員が児童に愛情をもって接する学校 〇確かな学力を活かしながら自ら考え表現し、対話的な学び合いができる児童を育てる学校 〇ＰＤＣＡ（計画・実践・評価・改善）を実践し、児童にとって合理的・効果的な教育活動を行う学校 〇保護者や地域と共通理解を深め、地域の人材や環境を活かし、児童が意欲をもって学ぶ学校
〇児童・生徒像	自分のよさに気付き、自己肯定感を高めながら伸びていく児童 〇知（む　結ぶ知恵）既習事項を確実に身に付け、それをもとに知識と知識を結び付けて考える子 〇体（つ　強い体）心身ともに健康な体づくりをし、最後までやり抜く子 〇徳（ぎ　義理人情）思いやりをもち、人間関係を形成できる子
〇教師像	〇同僚性：プロとしての自覚（法令等遵守、学校経営方針踏襲）をもち、同僚と支え合い、切磋琢磨しながら成長する教師 〇発見力：一人ひとりの児童の実態を把握し、児童の資質・能力を伸ばそうと努力し、児童の成長を見付けて喜べる教師 〇想像力：職務に夢と誇りをもち、想像力を働かせて職務を遂行できる教師

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

〔学校の現状〕

（１）人に懐くことが上手で、とても明るく素直である。表裏がなく、高学年でも親しみやすい児童が多い。

（２）既習事項の定着に難しさがある。これは、学習指導、生活指導、その他の指導に共通することである。児童が学習したことを思い出せるよう、また、指導法の違いにより児童が混乱しないようにするために、ユニバーサルデザイン、言い換えれば、特別支援教育の考え方も取り入れた、学校全体での共通した指導内容、指導方法、環境整備が課題である。

（３）学力向上の要となる授業改善を進めるため、データ（各調査や単元テスト等）と授業公開（研究授業、学校公開、他）を刺激にしながら授業改善を進めるとともに、自身の授業の結果に責任感をもたせて主体的に補習等に取り組ませていきたい。

（４）コロナ禍により PTA 活動が縮小されたが、本地域の児童に体験活動が必要な実態は変わらない。開かれた学校づくり協議会主催の土曜事業をボランティアを活用しながら継続する。学校図書館支援員・ボランティアには、本の紹介、読み語り等、可能な限り力を貸していただいている。

〔前年度の成果と課題〕

（５）ＡＳに基づく授業改善を全校体制で進めたことが成果。授業評価シート活用による改善度の可視化、ＡＳ卒業生の師範授業の充実が課題。

（６）校内でつまずきの多い単元等について情報共有を重ねることができたことが成果。１２月の再調査で自分の担当した授業の結果について責任をもって補習等に取り組ませることが課題。

（７）挨拶は、初心にかえり、大人が手本を見せていくことが課題。

（８）体育的行事をとおした体力づくりを可能な限り実施できた。問題解決的な学習を体育でも進めていけるようにすることが課題。

4　重点的な取組事項

	内　　容	実施期間（年度）　R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	人権尊重と思いやりの心の育成を通したいじめ防止	○	○	○	○	○
3	健康な体づくりと体力向上	○	○	○	○	
4						

5　令和５年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上アクションプラン

A　今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
校内再調査（６月～10 月） 目標値通過率 75%	２月校内予備調査 目標値通過率 75%	校内再調査（12 月） 目標値通過率		

B　目標実現に向けた取組み

新・継	アクション プラン	対象・ 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認 方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	児童が主体的に取り組む授業へ	全教員	４月～ ３月	・管理職、教科指導専門員等が授業を参観し、放課後等に指導・助言する。 ・学年主任及び足立スタンダード習得者が師範となる授業を見せ学ばせる。	・年２回授業観察。 ・授業研究や交換授業。 ・校内研究を年 7 回実施。	・足立スタンダードのマスターすべき項目の習得状況を増やす。			
2 継続	朝学習	全学年	４月～ ３月	・基礎計算の指導、MIM 指導、AI ドリル等による指導、文章題、読書※曜日を決めて指導。	・計画どおりにできているか管理職等が確認。	・計算ﾃｽﾄ結果（個人内+10ﾎﾟｲﾝﾄ、MIM の 3rd ｽﾃｰｼﾞ児童（各学級３名以内）			

3 継続	学校図書館の活用	全学年	４月～ ３月	・教職員、学校図書館支援員が協働しながら豊かな言語感覚を養う学校図書館活用を実践していく。学校図書館を使った行事を精選していく。	・読書記録の実施。 ・授業の中で調べる学習ｺﾝｸｰﾙ課題提示。	・各学年の目標冊数またはページを学年で設定。 ・調べる学習ｺﾝｸｰﾙへ参加。			
4 新規	補充学習教室	全学年の児童 国語 算数	・給食準備時間 ・雨の日の休み時間	・九九マスター、計算マスター、音読マスター等、、意欲的に取り組める活動を仕組む。（協議会との連携） ・放課後だけでなく、給食準備時間や雨天時休み時間等の隙間時間活用。	・対象となる学年・学級について通過目標を設定して達成状況が何割かを確認。	・年度末までに全員が何らかのマスターを一つは習得する。			
5 継続	ｻﾏｰｽｸｰﾙ	全学年の抽出児童	夏季休業日の10日間（45　分×10）	・前学年のつまずき部分を補充。個別あるいは少人数指導。一人一人の課題に応じた教材の準備。中高生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱも活用。	・事前と事後にテストを実施。	・抽出児童のｻﾏｰｽｸｰﾙ全日出席。 ・ﾃｽﾄ個人内平均＋５点。			
6 継続	放課後補充	全学年の抽出児童（前学年までのつまずき児童、現学年のつまずき児童、課題過多児童）	４月～ ３月	・管理職・そだち指導員・特別支援教室担当者・学習支援員・ＳＳＳ・学習ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ・第６学年有志児童等が、学級や学年でつまずきを充分に解消できなかった児童のために補充を行う。 ・そだち指導員とも情報を共有し、個別指導の内容が重複しないようにする。	・区調査正答率50%から70%の児童を中心に抽出。担任と実態共有。 ・校内再調査の分析結果より、抽出児童の学習定着の変容を担任と共有する。	・校内再調査の目標値通過児童20名以上。 ・再調査結果分析を校内共有し、抽出児童選定を随時見直し。 ・単元ﾃｽﾄのﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵよりつまずきの多い単元や領域等に特化。			

7 継続	ＩＣＴの活用	全教職員	４月～３月	・前期は全教職員がｸﾞｰｸﾞﾙｸﾗｽﾙｰﾑ及びＡＩドリルに関する理解を深める。 ・後期は、児童の意見を集約するためにICTを活用し、授業の検討場面を量的・質的に充実させる。 ・各学級で、ＡＩドリルを活用し、活用事例を校内で報告し合う。	・足立ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞの学習過程を活かしながら、ICTを活用した深い学び合いのできる授業を目指す。	・授業におけるICT の活用100%。 ・一人１回は、ＡＩﾄﾞﾘﾙ、ﾃﾞｼﾞﾀﾙ教科書を活用した授業や、実践事例を校内に報告する。			○

重点的な取組事項－２	人権尊重と思いやりの心の育成を通したいじめ防止

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・あいさつの習慣化	・代表委員によるアンケート結果「あいさつができている」という肯定的な意見の割合が80%以上			

項目	達成基準	具体的な方策			
あいさつの習慣化	２月のアンケート結果「あいさつが上手になったと思う」 肯定的意見80%以上	・あいさつ運動の継続、強化 代表委員、PTA、第６学年有志児童との連携。 ・看護当番を中心に教職員があいさつを積極的に実施。			
いじめの早期解決	いじめの早期解決100% いじめ受付表、年間100件以上	・いじめはいつ・どこでも起こり得るという認識共有。 ・家庭、地域、学校が一体となったいじめ防止の取組。			
教師の人権意識を高める	達成状況を自己評価100% 児童を大事にした掲示ができているか。	・人権ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを活用した研修を４月の実施。 ・生活指導部（人権担当兼務）による定期の教室見回り。			

重点的な取組事項－３	健康な体づくりと体力向上

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・健康な体をつくるための意識向上	・体力状況調査の都平均より５ポイント上回る。			

項目	達成基準	具体的な方策			
休み時間や放課後の外遊び奨励	２月のアンケート結果「休み時間に外で遊んでいる」が全体の 80%以上	・休み時間に教職員が校庭へ出ることの習慣化。 ・キッズパレットと連携した投げる遊びの推進。			
なわ跳び・持久走アタックの実施	個人カードにおける目標達成７割以上	・個人カードの活用。 ・年間を通して切れ目のない適切な体育的行事の実施。			
体育の授業における運動量の確保	問題解決的な学習ができているか。	・授業観察をとおして確認 ・体育実技研修の実施。			

６　まとめ